

韓国「戒厳」クーデタ弾劾！



国境越えた団結で戦争政府倒そう！

12月3日22時すぎ、韓国・尹政権が「非常戒厳」を宣布。会見で「私は北韓共産勢力の脅威から自由大韓民国を守り、韓国国民の自由と幸福を略奪している破廉恥な従北反国家勢力を一挙に剔抉し、自由憲政秩序を守るために非常戒厳を宣布します」と語った。

韓国での戒厳令は1980年の光州蜂起以来だ。44年前には、軍事独裁政権にたいする民主化運動を鎮圧するために発令された。

陸軍大將が戒厳司令官となり、同日23時付で出された戒厳司令部布告令には「国会と地方議会、政党の活動と政治的結社、集会、デモなどの一切の政治活動を禁じる」「すべてのメディアと出版は戒厳司令部の統制を受ける」「社会混乱を助長するストライキ、怠業、集会行為を禁じる」「布告令違反者に対しては大韓民国戒厳法第9条(戒厳司令官特別措置権)により令状なしに逮捕、拘禁、押収

搜索ができ、戒厳法第14条(罰則)により処断する」と盛り込まれた。

政治活動の一切を禁じ、反戦・反政府ストライキを禁圧する許しがたいものだ。先月おこなわれた韓国民主労総の労働者大会には、尹政権打倒を掲げ、労働者・労働組合が集まり、警察の暴力的な弾圧をはね返して10万人があつまった。こうした労働者の闘いに追い詰められた尹政権が、戒厳令を使ってクーデタ的に労働者の闘いを鎮圧しようとしたのだ。労働者の闘いを叩き潰すための戒



戒厳令を絶対に許すことはできない！

なによりも、この戒厳クーデタを許さず、即時に韓国労働者は戒厳令阻止・尹政権打倒の闘いに立ちあがっている。



国会を封鎖した武装した国家権力と対峙し、銃を構えた兵士と立ち向かい、議会で戒厳令阻止の緊急採決がおこなわれるあいだバリケードで軍隊の侵入を阻み続けた。この採決によって、法的には戒厳令の解除が決定された。

日米の中国侵略戦争が核心

なにより、この戒厳クーデタは、日米帝国主義が中国侵略戦争を決断し、日米韓軍事同盟を構築するなかで起きている。

11月16日にはAPEC（アジア太平洋経済協力会議）にあわせて日米韓首脳会談がおこなわれ、3カ国の軍事的連携を強化するための「調整事務局」新設を盛り込んだ共同声明が発表された。

それに先立つ13～15日には、今年2度目となる日米韓共同訓練「フリーダムエッジ」が東中国海などで行われ、米海軍の世界最大の原子力空母「ジョージ・ワシントン」、航空自衛隊のF 15 戦闘機や海上自衛隊のイージス艦「はぐろ」、米韓の最新鋭ステルス戦闘機F 35などが展開された。7日には、防衛相・中谷元が横須賀基地に寄港中の韓国海軍強襲揚陸艦「マラド」に乗艦した。日本の現職防衛相が韓国軍艦艇に乗り込むのは初めてだ。

こうした日米韓の軍事的一体化＝3カ国軍事同盟化の動きと大規模軍事演習のエスカレートこそが、朝鮮半島の軍事的緊張と戦争危機を急速に激化させている。

11月大統領選で勝利したトランプは、閣僚を対中・対イラン強硬派で埋め尽くし、中国を「米国が直面したなかで最大かつ最先端の敵国」（マルコ・ルビオ、国務長官に指名、9月ワシントン・ポストに寄稿）、「非常に深刻な競争相手、敵対国」（マイケル・ウォルツ、国家安全保障担当大統領補佐官に指名、米陸軍特殊部隊グリーンベレーに所属しアフガニスタン侵略戦争を経験）として排外主義を煽り立て、中国への侵略戦争に突き進んでいる。イスラエルに武器を送り、パレスチナの虐殺に加担し続けてきた民主党・バイデン政権、ハリスにたいする労働者の怒りをさらなる生活破壊と戦争に向かって全力で動員しようとしているのがトランプだ。「メイク・アメリカ・グレート・アゲイン（アメリカを再び偉大に）」というスローガンにあらわされるとおり、アメリカ帝国主義の政治支配はグラグラだ。だからこそトランプは「民主主義」の装いも投げ棄て、戦争に活路を見出しているのだ。

アメリカ労働者階級は、ハリスもトランプも支持しない「ダブル・ヘイターズ」にあらわされるように、戦争を必要とする社会を変える闘いに立ちあがっている。ストライキでイスラエルへの武器輸送をストップし、大学内でパレスチナ連帯のキャンプをはり、議事堂を直撃するデモを叩きつけている。戦争に突き進む自国政府を倒す闘いこそが必要だ。

韓国・民主労総はさっそく尹政権打倒のゼネストを呼びかけている。

なにより、中国侵略戦争の「要」として位置づけられている日本帝国主義・石破政権を倒す闘いに立とう！

国境を越えた団結で戦争を止めよう！ 11・3全国労働者総決起集会に集まった3000人の戦争絶対反対の闘いのなかに、その展望はある。広大生は、本日（12月4日）の11・3集会&訪韓闘争報告集会に集まろう！